

昭和 45 年度を目標

畜産振興実施計画の概要(その1)

家畜頭数 2.2 倍、生産額を 3.3 倍に

近年の農業生産は、それ自体の持つ後進的な性格から伸び悩みをみせている。そしてそれ故に成長分野としての畜産および果樹園芸部門には大きな期待がかけられている。

県畜産課ではこの6月新しく岡山県畜産長期振興実施計画を取りまとめ公表したが岡山県の畜産をこれから伸ばしていく上には、現在、将来ともにいろいろの問題点が見出され、隘路も予想されるがつぎに畜産計画の概要を紹介することとしたい。

基本構想と概要

この振興計画では冒頭に計画策定の基本構想として「畜産行政の立場から農業近代化の方向について検討を加え、県勢振興計画における畜産施策の強力な推進」を主旨とし、さらにこの計画によって「農業基本法あるいは県政振興計画による新農政の方向を、さらに具体的に明らかにし、家畜改良増殖法に基づく畜産振興の方向づけによってあらゆる施策の実施体制を確立する」ことの必要性を述べており、生産性向上による農業従事者の所得の増大と生活水準の格差是正を目標としている。

また今回の振興計画を新たに策定する背景となった主な原因として、これまでの県政振興計画での畜産計画には、ここ数年の激しい内外の経済情勢の動き——農業基本法制定、農林省の農産物の需要と生産の長期見通しの公表(37、5、11)、貿易の自由化、農村労働力の流出等——によって、計画内容の改訂の必要が生じたことがあげられるが、新計画にはこれらの点の改正とともに、資金面、推進機構の整備強化、地域性などを盛り込んで、より総合化、具体化されていることが特徴である。

まず最初に計画の概要をみると、振興計画の目標としては、県政振興計画の趣旨に基づいて、適地適産の方向で生産基盤を整備して畜産経営規模を拡大

すること。近代化経営農家群の集団化によって畜産経済圏の形成につとめ、生産から流通にいたるまでの一貫した全理化をはかることにしている。

計画は昭和36年度を基準年次とし、昭和45年度を目標として、県政振興計画地域に従って別表のような県南、東部、西部、西北部、北部の5ブロックに分け、地域の特性を生かして振興をはかることになっている。

県下の畜産物の生産は、生乳は現在(36年)の5万9,400トン、46年には5.3倍の31万6,000トンに、鶏卵は3万2,300トン、2.9倍の9万3,400トンに、食肉は8,400トン、3.6倍の3万100トンにそれぞれ伸ばす。

また家畜増殖計画では、乳牛は現在の2万7,000頭を4倍の10万9,000頭に、その他肉用牛(和牛繁殖)は7万頭を1.5倍の10万3,000頭に、豚は3万5,000頭を2.3倍の8万頭に、鶏は337万羽を2.4倍の794万羽に増殖する。

この結果生産金額では、家畜、畜産物合わせて36年度の125億2,700万円が3.3倍の414億4,000万円に高まると見込んでいる。

これらの生産拡大のための所要資金は概略累計326億円を要し、うち168億円を融資により、158億円を自己資金その他によるものとして見込んでいる。

所得目標と経営内容

つぎに基本方針としての考え方として、まず昭和45年の農業専業者の1戸当り年間所得目標を75万9,000円としている。これはさきに出された「岡山県農林漁家就業改善対策」答申案によって45年の県下他産業従事者1人当り年間所得55万円の推定額に対して、78%の所得を確保することとしているわけである。

つぎに経営内容としては、耕種部門と有機的に結

岡山畜産便り 1963.08

び付いた自立農家の育成に重点を置き、同時に農業近代化の重要な方向として経営規模拡大のため生産手段、流通過程での協業組織を促進させていくことにしている。

飼養規模を拡大して畜産による農業構造の改善をはかるためにはまず省力的新技術の導入、家畜防疫体制の整備生産物の処理、加工および販売機構の合理化などとともに、家畜導入とその管理施設の近代化のための必要な資金が円滑に供給されなければならない。さらにこれら多頭羽飼養のための畜舎構造、

飼料給与、生産物処理、家畜自体の生産能力の向上などの一連の新技術の早急な確立が必要であるとしている。

またこれらの推進はいろいろの条件を考慮して適地に主産地形成をはかることとし、協業的な組織を伸ばし、生産の専門化によって集出荷を合理化して、体量の優れた銘柄品の計画的取引によってコストを引き下げ収益の増大をはかる。

畜産農家の育成目標と、県下の畜産物の生産額は別表5、6のとおりである。

(表1) 畜産物の生産計画

(単位：トン)

区分	年度	36	37	37/36	40	40/36	45	45/36
生乳		59,391	81,044	136.4%	169,820	285.8%	316,049	531.9%
鶏卵		32,284	40,518	125.5	58,119	180.0	93,366	289.2
食肉		8,423	11,110	131.9	17,280	205.1	30,185	358.3

(表2) 家畜増殖計画

(単位：頭・羽)

区分	年度	36	37	37/36	40	40/36	45	45/36
乳用牛		(3,396)	(4,146)	(122.1)%	(6,970)	(205.2)%	(15,500)	(456.4)%
肉用牛		27,072	36,680	135.5	68,910	254.5	109,140	403.1
馬		69,955	73,750	105.5	85,000	121.5	103,750	148.3
豚		1,290	1,000	77.5	800	62.0	600	46.5
めん羊		35,010	40,000	114.3	60,000	171.4	80,000	228.5
山羊		1,890	1,500	79.4	1,000	52.9	1,000	52.9
鶏		12,820	12,000	93.6	10,000	78.0	10,000	78.0
計		3,376,500	3,659,800	100.4	5,027,200	148.9	7,941,000	235.2
		140,556	157,378	113.0	218,082	156.9	310,000	216.5

(注) () 内はジャージーで内数、計は家畜単位：大家畜=1豚=1/5めん山羊=1/10鶏=1/100

(表3) 畜産生産額

(単位：千円)

区分	年度	36	40	40/36	45	45/36
家畜		2,426,482	4,688,109	193.2%	7,442,766	306.7%
産物		10,101,354	20,188,356	199.9	33,997,683	336.6
計		12,527,836	24,876,465	198.6	41,440,449	330.8

(表4) 資金計画

(単位：千円)

区分	家畜導入	近代化施設	技術指導調査等	飼料対策	衛生対策
事業費	7,270,000	19,158,000	2,758,000	2,816,000	599,000
資金区分					
融資金	2,560,000	13,411,000	—	713,000	86,000
その他	4,710,000	5,747,000	2,758,000	2,103,000	513,000

(表5) 各家畜別の畜産農家の育成目標

区 分		自 立 経 営 農 家			有 畜 経 営 農 家		
		飼養規模	戸 数	頭 数	飼養規模	戸 数	頭 数
乳 用 牛		11頭	6,614戸	72,754頭	4頭	9,921戸	36,386頭
肉用牛	繁殖経営	—	—	—	4	26,000	103,730
肉 牛	若令肥育経営	16	792	12,672	7	1,848	13,443
	短期肥育経営	20	163	3,260	7	1,469	10,625
豚	企業肉豚経営	常時 500	30	15,000	—	—	—
	自立肉豚経営	" 100	170	17,000	—	—	—
	有畜繁殖経営	20	500	10,000	—	—	—
	" 併用経営	{繁殖 5	1,200	30,000	—	—	—
" 内豚経営	20	—	—	20	400	8,000	
採 卵 経 営		1,000羽	4,718	4,718,000羽	170羽	18,872	3,223,000羽
プ ロ イ ラ ー 経 営		12,000	450	5,400,000	—	—	—
計		—	14,627	—	—	58,510	—

(表6) 畜 産 生 産 額

年 度		家 畜					
		肉 用 牛	乳 用 牛	豚	プ ロ イ ラ ー	ひ な	小 計
36	生 産 量	頭 33,060	頭 5,960	頭 45,300	千羽 600	千羽 8,469	—
	生 産 額	千円 1,424,886	千円 250,320	千円 172,140	千円 156,000	千円 423,136	千円 2,426,482
45	生 産 量	頭 60,000	頭 27,250	頭 200,070	千羽 5,400	千羽 25,500	—
	生 産 額	千円 2,586,000	千円 1,144,500	千円 760,266	千円 1,404,000	千円 1,548,000	千円 7,442,766
45/36	生産量(%)	181.5	457.2	441.7	900.0	301.1	—
	生産額(%)	181.5	457.2	441.7	900.0	365.8	306.7
年 度		畜 産 物					合 計
		牛 乳	食 肉	鶏 卵	そ の 他	小 計	
36	生 産 量	トン 59,391	トン 8,033	トン 32,284	—	—	—
	生 産 額	千円 1,769,852	千円 2,745,890	千円 5,504,422	千円 81,190	千円 10,101,354	千円 12,527,836
45	生 産 量	トン 316,049	トン 26,675	トン 93,366	—	—	—
	生 産 額	千円 9,418,260	千円 8,585,750	千円 15,918,903	千円 74,770	千円 33,997,683	千円 41,440,449
45/36	生産量(%)	532.1	332.1	289.2	—	—	—
	生産額(%)	532.1	312.7	289.2	92.1	336.6	330.8

(注) 1. 肉用牛・乳用牛・豚は子畜生産・乳用牛はメスのみをあげた。
 2. ひなには卵用鶏のオスひなは含まず。
 3. 食肉生産には生体として出荷されたものを含む。